

東海道五十三次を往く

第23回

浜松宿

本陣6軒を擁した箱根に並ぶ宿場町

浜松の宿は、浜松城の城下町として大いに栄え、天保年間には本陣が6軒、旅籠が94軒もあった。箱根と並ぶ大規模な宿場だったという。戦災による消失や、道路拡幅で、現在の街道筋には当時の面影は残されていない。浜松宿歩きでは、道路脇に佇む案内看板や石碑も見落とさないように。そして浜松城の天守閣から遠景を望み、家康の往時に思いをはせよう。



左手に三方ヶ原の古戦場跡。右手奥に浜松城。手前には「颯々の松（ざざんぎのまつ）」が描かれている。浮世絵の場所は、現在の子安町から馬込橋の間など諸説あるが、現在では、高い建物が並び立ち、浜松城を遠望できる場所は見当たらない。



天守内部には、徳川家康をはじめとする武将ゆかりの品々が展示されている。

浜松城

当時の面影を残す野面（のづら）積み石垣の先に浜松城の天守閣が現れる。徳川家康が29歳から45歳の間の居城で、「出世城」とも呼ばれる。家康の出世にあやかろうと、禄が減っても浜松城に任じてほしいと願う出陣者もいたとか。

杉浦・川口本陣跡

天竜川から西に進んできた東海道は、大手門前で南に進路を変える。連尺交差点から伝馬交差点あたりが、宿場の中心地。高札場跡、佐藤本陣跡、杉浦本陣跡、梅屋本陣など、案内板が往時のにぎわいを物語る。



おみやげ

大豆を発酵させ、1年以上塩漬けて天日に干す江戸時代からの製法を守り、7代目当主が作る浜松名物。ご飯のおともや酒のあて、料理の隠し味にも。



浜納豆 100g入 460円

ヤマヤ醤油

静岡県浜松市中区助信町15-1
☎053-461-0808
営業 9時～17時
休日曜（祝日は営業）
※県内各所、一部県外のデパートなどで購入可能。

遠州の素朴な味わいを訪ねて

「しそ巻き」は、唐辛子や砂糖を混ぜ込んで調味した味噌とそれを包むとしその風味が食欲をそそる品。遠州の郷土食で、浜松では現在も当たり前食卓にのぼる惣菜という。

起源は幕末。東海道を往く人の弁当用に売出し、人気を博したという「六軒京本舗」の品にたどりつく。店構えは、なんとも味わいのあるたたずまいの一軒家。ワクワクしながら近づくと、入り口の木戸には暖簾も営業中の札も見当たらない。「もしや、今日は店休日?」と思いながら木戸に手をかけると、するりと開く。声をかけると、裏手から店の方が出てきてくれた。

聞けば、ここでは創業時からの味を守り、味噌を赤しそで巻いて油を塗ってこんがり焼いたしそ巻きを作っている。ただ、最近の売れ筋は、青しそを使って油で揚げたものや、ピーナッツ味噌をしそで巻いた一品だという。

店内には武者小路実篤が揮毫した店名の額装が。趣ある老舗を訪ね、求める素朴な味わいは、また格別だ。



志そ巻(赤) 2串入 310円
志そ巻(青) 1串入 191円

六軒京本舗

静岡県浜松市東区大蒲町83-11
☎053-461-3677
営業 9時～17時
休日曜（祝日は営業）

東海道五十三次を巡る旅。今回は実距離で江戸と京のちょうど中間にあたる「浜松宿」へ。



地域の魅力でもてなすご当地楽(ごとうちがく)

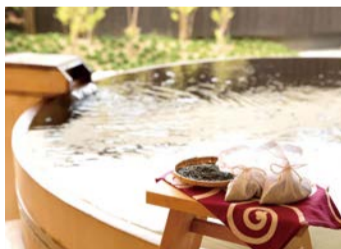
「星野リゾート 界」が展開する、土地の文化と触れる特別なおもてなし「ご当地楽」。「界 遠州」では茶処ならではの「美茶楽」がテーマになっている。



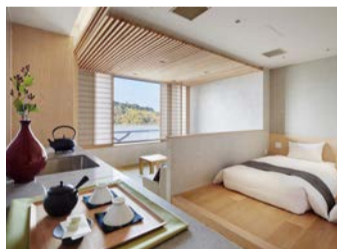
夏的美茶楽は、「涼茶美容体験」。お茶を抽出する温度や時間を変えて移ろう味を楽しむ。お茶の基本を学びながらお茶をブレンドする「合組」で、自分だけのお茶作り体験も。

DATA

静岡県浜松市西区館山寺町399-1
☎0570-073-011(界 予約センター)
JR浜松駅から無料送迎バス45分(要予約)
<https://kai-ryokan.jp/enshu/>



大浴場「華の湯」。茶葉を籠に詰め、国産ヒバの大きな桶型の露天風呂に浮かべた「お茶玉美肌入浴」が楽しめる。



茶処カウンターが備えられた「遠州つむぎの間 茶処リビング付き和室」。



浜松の伝統工芸「遠州綿紬」の縞柄を彷彿とさせるツツジと茶の木を交互に配した茶畑。



名物の鰻とぶぐを味わえる特別会席「ぶぐうな会席」

今宵のお宿

星野リゾート 界 遠州

全室から浜名湖を望める「星野リゾート 界 遠州」。モダンな客室、趣の異なる2つの大浴場を備える。ご当地料理や茶処ならではののもてなしも魅力。